

## NEWS RELEASE

報道関係者各位

2025年9月18日

公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

# 大阪・関西万博において「2027年国際園芸博覧会展、 未来につなぐ花き文化展示」を行います ～「次の万博は、横浜で。」を大阪・関西万博会場でPR～

GREEN×EXPO協会（正式名称:公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会、会長:筒井義信、所在地:横浜市中区）、農林水産省及び国土交通省は、2025年9月23日（火・祝）から9月27日（土）まで、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）「ギャラリーEAST」において、「2027年国際園芸博覧会展、未来につなぐ花き文化展示」を開催します。



「2027年国際園芸博覧会展、未来につなぐ花き文化展示」会場イメージ

大阪・関西万博会場におけるPR活動として、GREEN×EXPO 2027の紹介と日本が誇る花き園芸文化であるいけばな・盆栽の作品展示を行います。GREEN×EXPO ラボ マスターアーキテクトを務める隈研吾氏がデザインしたモニュメントの展示、本展示期間中しか押せない限定デザインスタンプの設置、23日に発売開始となる大阪・関西万博公式キャラクター ミャクミャクとGREEN×EXPO 2027公式マスコットキャラクター トウクトウクのコラボグッズ販売（23日のみ）、横浜スカーフ親善大使によ

るPRイベント（23日及び27日）等を行い、大阪・関西万博にご来場された方に、GREEN×EXPO 2027を知っていただき、その魅力を感じていただく機会とすべくPR活動を行います。

※GREEN×EXPO協会と公益社団法人2025年日本国際博覧会協会は包括連携協定を結んでいます。

#### ・隈研吾氏デザインによるモニュメント

移動・組立・解体・保管・再利用が容易で、環境に応じて全体の形状を変形できるフレキシブルなジョイントシステムを開発しました。環境負荷が小さく、自然と共生する、植物や生物のような、これからの建築のあり方を表現しています。2024年10月には第41回全国都市緑化かわさきフェア、2025年4月には第42回全国都市緑化ぎふフェアに出展しました。このモニュメントを模型やモックアップによって紹介します。



第42回全国都市緑化ぎふフェアに出展したモニュメント

#### ・いけばな、盆栽の作品展示

日本盆栽協同組合及び（公財）日本いけばな芸術協会の協力のもと、「未来につなぐ花き文化展示」として、日本が誇る花き園芸文化である「いけばな」と「盆栽」を各5点展示し、国内外から高く評価されている日本ならではの園芸文化の魅力の一端を感じていただけます。盆栽は、幹の力強さを感じさせる黒松や、季節の移ろいを感じられる山柿の盆栽等を展示します。いけばなは、池坊・小原流・草月流・未生流（庵家）・未生流笹岡の5つの流派の作品を展示します。（詳細は別添資料をご覧ください。）

展示台は、再利用率100%の段ボールを用いながら、日本の伝統木造の継手や仕口を応用することで、GREEN×EXPO 2027の理念を体現するデザインとしました。



会場イメージ（盆栽・いけばな）

・公式ライセンスグッズの販売（9月23日のみ）

2025年9月23日（火・祝）のみ、人気の「トゥンクトゥンク」ボールチェーンマスコットをはじめ、同日から販売開始となる「ミャクミャク」と「トゥンクトゥンク」のコラボグッズなど、GREEN×EXPO 2027公式ライセンス商品の一部を会場内にて販売いたします。



©Expo 2027 2027年国際園芸博覧会公式ライセンス商品

©Expo 2025 2025 大阪・関西万博公式ライセンス商品

（左）ぬいぐるみキーホルダー（ボールチェーンマスコット）、（右）コラボ商品 ステッカー

・限定デザインスタンプ

2025年9月23日（火・祝）から9月27日（土）の期間限定で、2種類の限定デザインスタンプを設置します。ギャラリーEASTの展示会場では、コラボグッズの発売を記念した「ミャクミャクとトゥンクトゥンク」のコラボスタンプが、コモンズE館のGREEN×EXPO 2027PRコーナーでは、現在設置しているスタンプに加え、次の万博をPRする「トゥンクトゥンク」のスタンプが登場します。

大阪・関西万博を満喫していただきながら、GREEN×EXPO 2027についても知っていただき、次の万博は横浜！への期待感を醸成します。是非お立ち寄りください。



（左）コラボスタンプ（ギャラリーEAST 設置）、（右）トゥンクトゥンクのスタンプ（コモンズE 設置）

・横浜スカーフ親善大使によるPR

横浜スカーフ（※）の魅力伝える親善大使が来場し、GREEN×EXPO 2027の開催地である横浜をPRするとともに、スカーフのできる応急手当など防災活用方法を紹介します。

9月23日（火・祝） 14:00～14:30、15:00～15:30

9月27日（土） 14:00～14:30、15:00～15:30

※1859年（安政6年）に横浜が開港されて以来、盛んになった生糸の輸出の流れの中で生まれた歴史ある地場産業のシルク100%のスカーフ



■「2027年国際園芸博覧会展、未来につなぐ花き文化展示」開催概要

- ・会場：大阪・関西万博 ギャラリーEAST（東ゲートゾーン E13）
- ・開催日程：2025年9月23日（火・祝）～9月27日（土）10:00～19:00  
（23日は11:00開場・27日は18:00閉場）
- ・主催：農林水産省、国土交通省、GREEN×EXPO協会

本件に関するお問い合わせ先

GREEN×EXPO協会（公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会）

【展示全般に関すること】 企画調整部企画課（担当：丹木） Tel：045-307-2046

【限定スタンプ、グッズ販売に関すること】 機運醸成部機運醸成課（担当：三堀） Tel：045-307-2031

GREEN×EXPO 2027 開催概要

名称	2027年国際園芸博覧会 (International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan)
正式略称	GREEN×EXPO 2027 (グリーンエキスポニーゼロニーナ)
開催場所	神奈川県横浜市
開催期間	2027年3月19日(金)～2027年9月26日(日)
テーマ	幸せを創る明日の風景 ～Scenery of the Future for Happiness～
博覧会区域	約100ha(内、会場区域80ha)
クラス	A1(最上位)クラス(AIPH承認+BIE認定)
参加者数	1500万人(有料来場者数：1,000万人以上)
公式サイト	<a href="https://expo2027yokohama.or.jp/">https://expo2027yokohama.or.jp/</a>



公式マスコットキャラクター  
「トウクントウク」

## 【参考情報】2027年国際園芸博覧会展、未来につなぐ花き文化展示

### ■展示するいけばなについて、花型・出品流派・出品者のご紹介（日本いけばな芸術協会）

※出品者の職位は、日本いけばな芸術協会の職位となります。

#### ① 立花（りっか）

書院造りの座敷空間の成立前後に、座敷飾りの花として「立て花」が成立し、やがて「立花」へと発展しました。

「立花」は数多くの役枝をもち、草木の出生にならって構成されます。木は山を、草は水の象徴とし、一瓶の中に自然の景観美、さらにはこの世の森羅万象を表します。

#### 池坊（いけのぼう）

池坊の家元は、いけばな発祥の地である京都六角堂にあり、遣隋使であった小野妹子を道祖として、550有余年の歴史と伝統を有しています。現在の家元は45世池坊専永です。六角堂を創建した聖徳太子の言葉“和以貴為”つまり花をいかし、人もいかす調和の美を基本精神としています。池坊は、いけばなを通じて人々の明日につながる喜びを与えていく事を目的として、日本伝統文化の発展を目指しています。

（出品者）織田 松富（おりた しょうふ）大阪 名誉特別会員

#### ② 抛入（なげいれ）

自然調で形の定められていない座敷飾りの花として始まり、その後茶の湯の花に受け継がれ、それが江戸時代に生花や文人花へと発展していきます。明治以降は、壺や瓶といった、口が狭く背の高い花器になびきいれるようにいける花のことを表すようになりました。

#### 未生流笹岡（みしょうりゅうささおか）

図面を用いた体系的な教授方法で「理論派」と呼ばれる。大正8年（1919）、笹岡竹甫により創流。当時、西洋の園芸植物を用いた「盛花」が台頭しつつあったが、未生流の高弟であった竹甫は、それまでの盛花には十分に古典の技法が活かされていないと考え、未生流の特色である鱗形（直角二等辺三角形）を踏襲した笹岡式盛花を編み出し、一派を立てた。流花「かきつばた」の技でも、広く全国に知られる。

（出品者）笹岡 隆甫（ささおか りゅうほ）京都 理事

#### ③ 生花（せいか）

江戸中期に抛入花が発展して形が定まり「生花」となりました。基本的には三つの役枝を構成

の中心としております。「天地人三才」という中国の思想が取り入れられ、人と自然との調和を求める精神性が盛り込まれました。「格花」「流儀花」とも呼ばれています。

#### 未生流（庵家）（みしょうりゅう（あんけ））

未生流の祖、未生斎一甫は、二代を未生斎広甫に譲ったのち、号を未生庵と名のる。初代が没してのち、未生流は、二代、未生斎広甫が継いだ未生流（大阪）の斎家と、未生流（芦屋）庵家とに分かれる。未生流（庵家）は、創流から二百余年の歴史をもち、典雅な格花の技術は、伝統につちかわれた精緻な美しさを誇ります。現代の生活様式に根ざした「盛花」「瓶華」「格風調」の自由花についても深い研究が進み、他流とは異なった日本の伝統美をいけあげています。

（出品者）佐伯 一甫（さえき いっぽ）兵庫 常任理事

#### ④ 盛花（もりばな）

明治中期、水盤など広口で底の浅い花器に、花を盛るようにいける「盛花」が創案されました。その後、水盤や鉢形の花器にいけるいけばなが、それぞれの流派によって考案されて「盛花」と呼ばれています。花を留める道具の一つ「剣山」は明治末期の考案とされています。

#### 小原流（おはらりゅう）

小原流は明治時代「僅か」百数十年前に誕生しました。盛花の創始により、小原流は広く大衆に支持を受けるようになり、その後もいけばなの集団授業や女性への教授職の開放をいち早く始めるなど、その時代に合った感覚を取り入れて発展してきました。現在は海外にも多くの支部があり、「いけばな」を世界中に広めていく活動をしています。小原流のいけばなには多くの「型」や「表現」があり、代表的なものに「琳派調いけばな」や「写景盛花」があります。

（出品者）高鞆 紺葉（たかくわ こんよう）京都 正会員

#### ⑤ 自由花（じゆうか）

大正から昭和の初期にかけて、いけばな作家たちが、近代意識にもとづく新しいいけばな、創造的ないけばなを形成しました。現在では、花器、花材、空間、寸法、思想などの制約を受けずに、自由な発想でいけられる創作的ないけばなを「自由花」と呼んでいます。

#### 草月流（そうげつりゅう）

1927年、勅使河原蒼風が創流。蒼風の「花はいけたら、人になる」という理念のもと、いける人の個性と自由な創造を尊重し、いつでも、どこでも、だれにでも、どんな素材でもいけら

れるいけばなをモットーとする。現在は第四代家元・勅使河原茜が、子どもへのいけばな指導や異分野アーティストとのコラボレーション、花がいけ上がる過程を様々な演出と共に楽しむ「いけばなLIVE」にも力を注ぎ、時代に即した新たな表現を追求している。

(出品者) 岡本 青珠 (おかもと せいしゅ) 大阪 理事

(参考) 公益財団法人日本いけばな芸術協会ホームページ/加入流派

[https://www.nihonikebana.or.jp/school\\_list/](https://www.nihonikebana.or.jp/school_list/)

## ■展示する盆栽のご紹介 (日本盆栽協同組合)

### ・ 黒松 (半懸崖) 樹齢約120年

日本の海岸風景を象徴する松の代表格。黒みを帯びた荒々しい幹肌と、強く長い葉が生む迫力から「男松」と呼ばれます。冬でも青々と葉を保つ常緑で、不老長寿の象徴として親しまれてきました。半懸崖 (はんけんがい) は、崖にしがみつく樹を表現した樹形で、幹や枝が鉢の縁より下へ流れつつ、鉢の底よりは上でとどまります。見どころは、時を重ねて割れた幹肌と、荒海に耐えるように下方へ流れる幹の力強さです。

### ・ 真柏 樹齢約150年

盆栽で「真柏 (しんぱく)」と呼ばれるヒノキ科のビャクシン類。厳しい気候の岩山に自生し、風雪にさらされて枯れた枝や幹が、長い歳月を得て白骨化した部分を「神 (ジン)」「舍利 (シヤリ)」といい、白い枯れ幹と、生きて水分を通す褐色の幹 (生き幹) のコントラスト、細かな鱗状の葉が生む繊細さで、世界的にも人気の高い樹種。150年という歳月が刻んだねじれや流れ、白と緑と幹色のコントラストから、自然の厳しさと美しさを同時に味わえます。

### ・ かえで石付き 樹齢 約90年

モミジの人気に隠れて目立たないカエデですが、実は植物分類上ではモミジとカエデは区別されず同じ植物とされています。一般に切れ込みが深く5裂前後を「モミジ」、3裂などを「カエデ」と呼び分けられています。春のやわらかな芽吹き、夏の涼やかな青葉、秋の紅葉、冬の枝姿と、四季で表情が大きく変わるのが魅力です。葉が小さく揃うと枝先まで繊細な景色が生まれ、日本の雅 (みやび) を感じさせます。石付きは、岩に根を絡ませて生きる自然の姿 (渓谷の崖や河原の岩を抱く木) を表現する技法で、野趣あふれる景観をつくります。岩をつかむ根の力強さと、幹肌や枝の分かれ方の美しさにもご注目ください。

### ・ そなれ 変わり木文人 樹齢約80年

ヒノキ科の常緑低木で、壱岐・対馬・沖縄など海辺に自生します。波風や塩に耐え、幹が地面を這うように伸びることから「磯馴れ（いそなれ）→そなれ」の名がつけました。

細かな葉が密に茂り、成長すると緑の絨毯のように地表を覆います。刈り込みに強く丈夫な性質から庭園でも重宝され、自生地の一部は天然記念物に指定され、別名ハイビャクシンやイワダレネズとも呼ばれています。

文人樹形は、余分な枝葉を削ぎ落とし、書の一筆のような幹の線美を見せるスタイル。本来は匍匐（ほふく）する性質を、あえて立ち上げて「線的美」を際立たせた変化樹形が個性を放ちます。

### ・ 山柿 樹齢 約70年

秋の実物盆栽として人気の高い柿。季節が進むと葉は紅葉し、実は橙や黄に色づいて、やがて落葉後は実だけが残り一層風情が増します。この木は自然な曲がりをもつ立ち姿の模様木と言われる基本樹形。今年は特に枝に実がたわわに付く鈴生り状態に仕上がりました。盆栽では老爺柿や豆柿など多彩な品種が用いられ、実の形も丸型から先尖りまでさまざまです。

山柿らしい曲がりの美しい幹に、まだ色づく前の青々とした葉のつく枝ぶりと、これから秋が深まるにつれて移ろいゆく色彩を想像してお楽しみください。